

令和8年 5月1日	農作物病虫害発生予報 5月	山口県病虫害防除所 山口県農林総合技術センター
--------------	--------------------------------	----------------------------

～目 次～

I	予報の概要	1
II	予報	
	【主要病虫害】	2
	【その他の病虫害】	6
III	参考(予報の見方、気象予報)	7

I 予報の概要

農作物名	病虫害名	予想発生量	現 況	
			平年比	前年比
ムギ類	赤かび病	多	多	多
カンキツ	かいよう病	少	少	少
ナシ	黒斑病	多	多	多
	黒星病	平年並	平年並	前年並
果樹全般	カメムシ類	多	多	多
タマネギ	べと病	やや少	やや少	前年並
	腐敗病	平年並	平年並	多

問合せ先

TEL (0835) 28-1211

FAX (0835) 38-4115

E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp

II 予報

【主要病害虫】

ムギ類

1 赤かび病

令和8年4月30日付け令和8年度度農作物病害虫発生予察注意報第2号参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22328.html>

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	2回目：1回目の防除後、7日～10日頃 3回目：2回目の防除後、7日～10日頃

(2) 予報の根拠

ア 4月下旬の巡回調査で発生が認められ、発生ほ場率11.8%(平年0%)、発病穂率0.2%(平年0%)で平年に比べ多かった(+)。

イ 気象予報では5月の気温は高く、降水量はほぼ平年並。(±)。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

ア 2回目・3回目の適期防除を徹底する。

イ 薬剤散布に当たっては、使用する農薬の剤型、使用時期を考慮して適切に散布する。

カンキツ

1 かいよう病

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
少	少	少	開花前、落花直後

(2) 予報の根拠

ア 3月下旬の越冬病斑調査では、発生ほ場率5.3%(平年14.8%)、発病葉率0.9%(平年1.4%)、発病度0.2(平年0.4)、発病葉枝率1.4%(平年1.8%)で平年に比べ少なかった(-)。

イ 気象予報では5月の気温は高く、降水量はほぼ平年並(±)

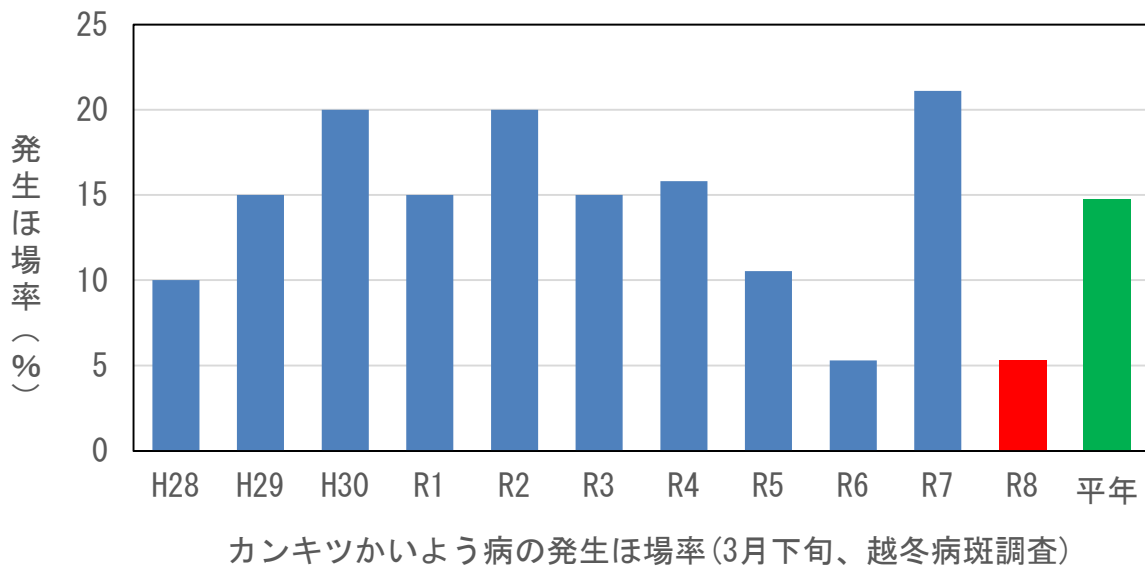
(3) 防除対策

<耕種的防除>

- ア 病斑のある葉や枝の除去を徹底する。
- イ 強風による枝・葉の傷を防ぐため、防風樹や防風ネットを整備する。

<防除のポイント>

- ア かいよう病にかかりやすい品種（アマナツ、イヨカン等）を栽培する園や病斑が認められる園は、春葉への感染防止対策として開花前に薬剤防除を実施する。
- イ コサイド等の無機銅水和剤を散布する場合は、薬害軽減のため炭酸カルシウム水和剤（クレフノン）200倍を加用する。また、新梢伸長期に I C ボルドー66D を散布すると、新梢に薬害が生じる恐れがあるのでパラフィン系展着剤を加用する。



ナシ

1 黒斑病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	小袋かけ前、小袋かけ後

(2) 予報の根拠

- ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率55.6%(平年27.2%)、発病枝率0.2%(平年0.3%)、発病芽率0.4%(平年0.1%)で平年に比べやや多かった(+)。
- イ 4月下旬の巡回調査では、下旬の巡回調査では、発生ほ場率11.1%(平年0%)、発病葉率0%(平年0%)、発病新梢率0.1%(平年0%)で平年に比べ多かった(+)。
- ウ 気象予報では、5月の気温は高く、降水量はほぼ平年並(±)。

(3) 防除対策

<耕種的防除>

発病芽は見つけ次第取り除く。園の周辺に積まれたせん定枝は早急に処分する。

<防除のポイント>

- ア 小袋かけ前は黒斑病の重点防除時期なので、薬剤を丁寧に散布する。
- イ 小袋かけは開花1か月後を目安に遅れないように実施する。
- ウ 耐性菌の出現を回避するため、同一系統の薬剤を連用しない。

2 黒星病

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	7月上旬頃まで

(2) 予報の根拠

- ア 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年2.7%）、発病葉率0%（平年0.0%）、果そう基部発病率0%（平年0.1%）で平年並みであった。（±）。
- イ 気象予報では、5月の気温は高く、降水量はほぼ平年並（±）。

(3) 防除対策

<耕種的防除>

発病した幼果や葉は伝染源となるため、摘果の際に取り除き、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

<防除のポイント>

- ア 高温期となる7月上旬までは、黒星病の防除適期であるため、薬剤を定期的に散布する。
- イ 耐性菌の出現を回避するため、同一系統の薬剤を連用しない。

果樹全般（ナシ、モモ、ウメ、カンキツ、ビワ等果樹全般）

1 カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

令和8年4月30日付け令和8年度度農作物病虫害発生予察注意報第1号参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22328.html>

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	園内への飛来確認時

(2) 予報の根拠

- ア クサギカメムシの隙間トラップによる越冬量調査(10か所)では、1トラップ当たり88.9頭(平年30.2頭)で、平年に比べ多かった（+）。
- イ 4月1日～20日の予察灯における果樹カメムシ類3種の捕獲数（県内3か所

合計) は13頭 (平年1.3頭) で、平年に比べ多かった(+)

ウ 気象予報では、5月の気温は高い(+)

(3) 防除対策

<耕種的防除>

ア 常発園では、ネット (網目 4mm以下) で園全体を覆い侵入を防ぐ。

イ 有袋栽培では大きめの袋、二重袋を使用し、袋かけは遅れないように行う。

<防除判断>

飛来時期や飛来量が園地によって異なるので、病虫害発生情報による県内全域の発生状況を参考にするとともに、園地にライトトラップを設置するなどして飛来を把握し、適期防除に努める。

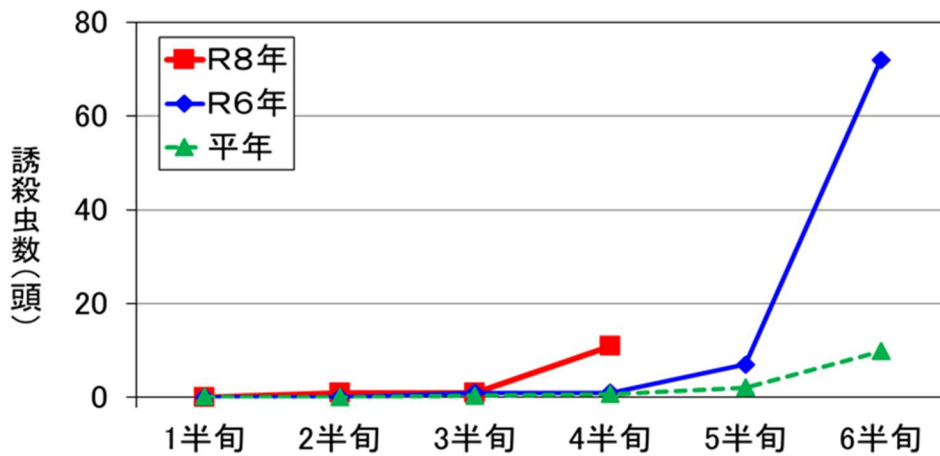


図2 4月の果樹カメムシ類の予察灯誘殺数(県内3か所合計)

タマネギ

1 ベと病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	前年並	7日~10日間隔の定期的な防除

(2) 予報の根拠

ア 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率7.4%(平年35.8%)、発病株率3.8%(平年12.1%)で平年に比べやや少なかった。(一)

イ 気象予報では、5月の気温は高く、降水量はほぼ平年並(±)

(3) 防除対策

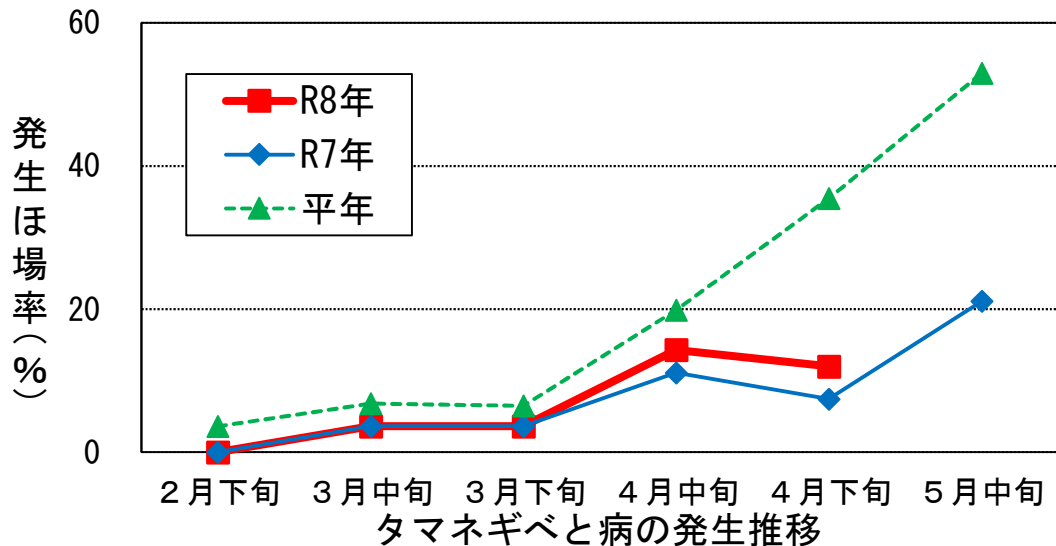
<防除のポイント>

ア 発病が認められるほ場では、治療効果のある薬剤(殺菌剤コード4、11、40及び43を含む薬剤)を散布する。

イ 中生及び晩生品種については、5月中旬頃まで新葉の展開に合わせて7日～10日間隔で定期的に防除を実施する。

ウ 薬剤を散布する場合、これまでの散布履歴を確認し、使用回数及び使用時期を考慮しながら、同一系統の薬剤を連用しないよう注意する。

エ ほ場の排水を良好にする。



2 腐敗病

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	多	発病前から予防的に散布

(2) 予報の根拠

ア 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率4.0%(平年8.8%)、発病株率0.1%(平年0.6%)で、平年並みであった。(±)。

イ 気象予報では、5月の気温は高く、降水量はほぼ平年並(±)。

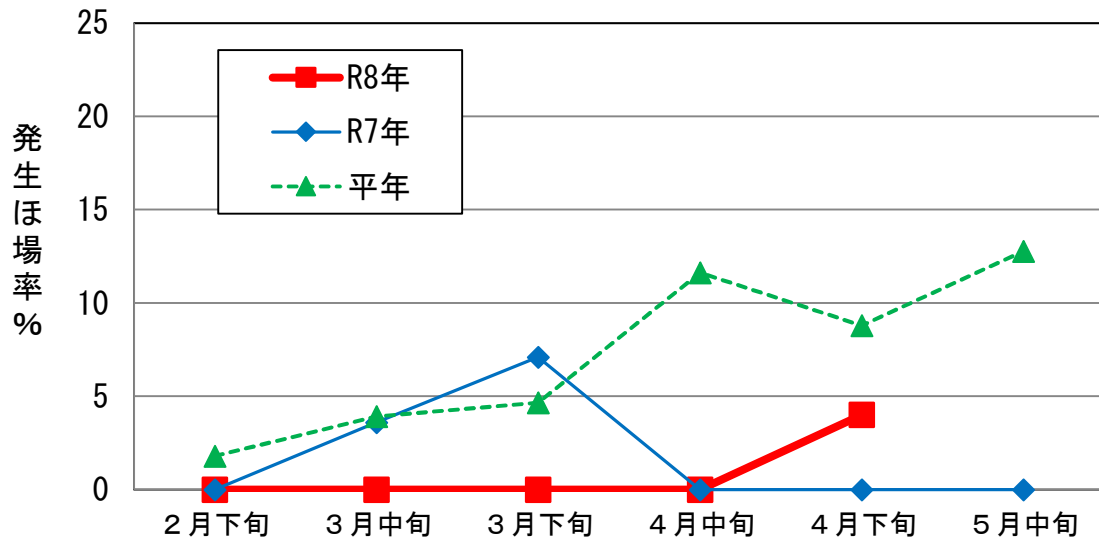
(3) 防除対策

ア 排水を良好にし、雨水などの停滞を避ける。

イ 発病株は抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。

ウ 本病の発生が認められるほ場では、薬剤防除を実施する。

エ 貯蔵中の発病を防ぐため、収穫は晴天日に行い、傷をつけないよう注意する。



タマネギ腐敗病の発生推移

【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想発生量	現況		発生ほ場率		備考
			平年比	前年比	本年 (%)	平年 (%)	
イチゴ	アブラムシ類	平年並	平年並	少	26.3	25.0	
	アザミウマ類	やや多	平年並	多	84.2	64.3	

III 参考

1 予報の見方

(1) 病虫害発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

ア 平年比

多	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多	平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並	平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少	平年並の外側20%の度数の入る幅
少	やや少ないの外側10%の度数の入る幅

注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	前年の評価より少ない発生
前年並	前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

(2) 病虫害発生時期の基準（原則として過去10年間の発生時期と比較）

早 い	過去10年間の平均値より6日以上早い
遅 い	より6日以上遅い
やや早い	より3～5日早い
やや遅い	より3～5日遅い
平年並	を中心として前後2日以内

(3) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

2 気象予報

(1) 概要

1 か月気象予報（4月23日福岡管区气象台発表）

予 報	低 い (%) 少 ない	平年並 (%)	高 い (%) 多 い
気 温	10	40	50
降 水 量	30	40	30
日照時間	40	30	30

週ごとの気温傾向

予 報	低 い (%)	平年並 (%)	高 い (%)
1 週 目	20	40	40
2 週 目	20	40	40
3～4 週 目	10	30	60